

掛塚の町は、今大きな転換期を迎えています。昨年「地域おこし協力隊」が旧津倉家を拠点に活動を始め、今年は、国交省のまちづくり事業「スモールコンセプション形成事業」が、新たな掛塚像を描くべく、作業をスタートさせています。

掛塚だけでなく、全国いたるところでまちづくりの議論が交わされている昨今ですが、先日見付のまちづくりに関わるワークショップに参加しました。

そこで出されたテーマは「30年後の見付はどうなっているか」でした。私のグループでは、「30年後は消滅している」という悲観的な意見も出されましたが、今の少子高齢化を目の当たりにすれば、むべなるかなと思います。いくらバラ色の将来が描けても、その担い手がいなくてはどうにもならない。そして次のテーマは、「この1年のうちにできることは何か?」今のうちにやっておくべきことは何か、何をしたらいいのか、ハタと困ってしまうのです。

人口減少が回避できない現実の中では、年金の問題や減税のことなどが国政でも大きな課題になっています。そんな中、社会教育施設である美術館や博物館、資料館なども収益をあげなければ存続ができないという

考え方が広がっていて、国立の博物館、美術館では既に取り入れられています。

磐田市には、切望されてきましたが、博物館はまだありません。「竜洋郷土資料館」の様な施設はありませんが、入館者はごくわずかでその存在もあまり知られていないようです。また、国の史跡である見付学校や、県指定文化財のある旧赤松邸は、資料館として公開されていますが、収益を考えて運営されているわけではありません(入場は無料)。

登録文化財の中には、古い貴重な建物を旅館やレストランなどに改装して収益を上げているところも多々あります。また、文化財建造物を博物館として利用しているところもあちこちに見られます。

旧津倉邸がどういう形で活用されれば、掛塚のまちづくりに資するのか、悩ましい問題ですが、年度末には結論を出さなければなりません。私たちにとって「今なすべきこと」は、将来に禍根を残さぬよう、地域の将来を真剣に考えることだと思います。

掛塚のまちづくりの夢を、一緒に考えていきましょう。



国登録有形文化財旧津倉家住宅

旧津倉家住宅はどこへ行くの?

「旧津倉邸を中心に未来の掛塚を考える」

名倉慎一郎

みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka

第42号

旧津倉家住宅はどこへ行くの?

P1 旧津倉家住宅はどこへ行くの?

P2-3 写生会／書道教室／バルーンアート

P4 浴衣DeJACKと氷出し煎茶の会／八雲神社で盆踊り

8月1日(土)

浴衣DeJACKと氷出し煎茶の会

津倉邸にて「浴衣DeJACK」と氷出し煎茶の会を開催しました。当日は、酷暑ともいえる暑い日でしたが、落ち着いた空間でゆったりとしたひとときを過ごしました。

氷を使ってじっくり時間をかけて抽出する「氷出し煎茶」は、普段のお茶とは違う、まろやかな甘みと豊かな香りで好評でした。浴衣や日本茶を通して、昔ながらの暮らしや季節を感じる機会となりました。

歴史ある建物で、着るもの、食、住まいを通して日本の夏を楽しむ今回の催し。津倉邸ならではの魅力を改めて感じる会となりました。



記事 大島たまよ



八雲神社で盆踊り

八月一日(土)の夕方『みんなと倶楽部掛塚・踊ろう会』有志メンバー12名にて八雲神社祭典に参加しました。

八雲神社は川袋にあり鎌倉時代建立された地元で親しまれている神社。鳥居の脇には掛塚の津倉家とも縁の深い長谷川貞雄の頌徳碑があります。拝殿前の狛犬はちよつと洋風的でとてもかわいい! 日ごろは静かな境内もこの日はかなり大変賑わっていました。

参道には昔懐かしいお土産さん(福引、ポン菓子、かき氷、焼きそば、唐揚げ、メダカすくい、射的、それから手作りクッキー等)いっぱいでした。

今回『踊ろう会』は『しっぺい音頭』『掛塚屋台音頭』『きよしのズンドコ節』『橋幸夫の恋をするなら』を披露しました。途中音源が飛ぶアクシデントもあり冷や汗ものでした。

お祭りの最後は恒例の花火大会。今回は八雲神社の境内からゆっくり拝見させて頂きました。夏の夜の楽しいひと時になりました。



記事 鵜藤孝

会員・賛助会員・ボランティア会員募集!

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後世に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。是非、ご参加ください。

正会員

運営・企画に携わっていただけます。年会費 **3,000円**をお願いします。

賛助会員

会を側面から支えて頂きます。会への行事も自由にご参加ください。**1口1,000円**の年会費となります。

ボランティア会員

会の事業・イベントに、いつでも気軽に参加ください。**会費はありません**。小・中・高校生の方も気軽に参加してください。



振込先はこちら

静岡銀行 竜洋支店
普通預金 0439697
みんなと倶楽部地域づくり
会計 新村京子

お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください!

☎ 0538-66-4775 (名倉)

みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka



● 会長 池田藤平
● 事務局 名倉慎一郎
● 編集 露田茂巳、山内紀子、鈴木小百合
江原一也、小栗広美

8月恒例 毎週土日は開放 DAY

夏休み特別企画

Summer Vacation Special Event

書道教室

毎週土日開催しました

旧津倉邸の8月の土日恒例の公開に合わせ、今年は10日間にわたり書道教室を開催しました。午前9時から午後3時まで自由参加とし、幅広い世代の方に参加していただきました。

特に子ども向けの書道教室では、夏休みの宿題である課題の文字を半紙に元気よく挑戦しました。納得がいくまで何枚も書き直しながら、一文字一文字と熱心に向かう姿が見られました。

また、大人向けには住所や氏名、簡単な御礼・御祝の書き方を学ぶ実用書入門講座が好評でした。

当日は邸内の見学のほか、周辺での写生大会やバルーンアートなども行われ、猛暑の中を多くの方にご来場いただきました。

忙しくも充実した夏のイベントとなった今年の経験を活かし、来年はさらに楽しめる企画を考えてまいります。

記事 鈴木 彰



お母さんも挑戦

筆の運び方はこうします



BALLOON ART

バルーンアート体験



大人はドキドキ、子どもはワクワク

カッコいい剣ができました！

バルーンアート体験を開催しました。

講師は「ともりあバルーンの会」で活動されている、鈴木知子さんと早川朱美さん。

浜松から参加してくれた小学生のけい君も先生に教わりながら上手に剣などを作っていました。初挑戦の大人は、バルーンを捻るときに思わず顔を背け、割れてしまわないかとドキドキしながら楽しんでいました。また、先生が作ったしっぺい、くまモン、ピカチュウなどを孫のお土産にと持ち帰る方もいました。

大人も楽しめるバルーンアート、次の機会にはまた多くの方に参加していただきたいと思います。

記事 山内紀子

8/15開催

第5回

夏休み子ども写生会 津倉邸を描こう！



ところを注視した表現が見られました。今回の写生会では、描くものの選択から心の広がりを感じられました。

『私たちの住む町を絵で表現する。その絵を見て、この町の良さを再発見する。』貴重な夏休みの半日は充実した時間になったでしょうか。

作品は、十月十七日〜十八日の掛塚祭り・津倉邸公開日に作品展で展示します。多くの方に鑑賞していただきたいと思います。

子どもたちの成長が見られた歩前進の写生会でした。この試みが、次の写生会の開催そして文化財が多く残る掛塚の町を描く写生会へと、さらに発展していければと思います。

記事 福長 昇



四年生 中津川 桃叶さん



四年生 芥田 玲子さん



三年生 大澤 悠生くん

【画題「つくらへ」の家】
家でも練習してきたので、屋根の所がじょうずに描けました。編集コメント 昨年は屋根の瓦がむずかしかったそうです。

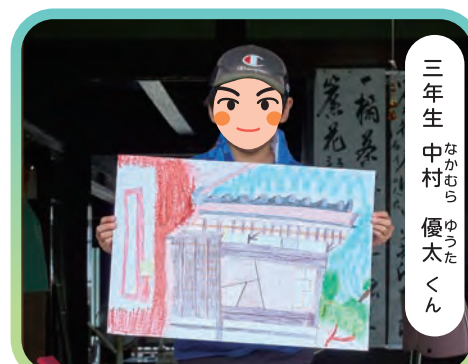
【寸評】
画面いっぱい屋根と木を配置して絵の大きさを感じさせます。屋根と壁を塗りこんで、さらにがっちりした建物になるような表現をしましょう。空に色をつけると絵が語りますよ。

【画題「茶室から見た庭」】
茶室の掛け軸の字を再現するように、わざとくすねたように書いて工夫しました。ちよんどうアゲハ蝶が飛んでいたの描きました。

【寸評】
茶室の床の間と窓から見える庭をやさしく表現しています。茶室の木材や蛇腹の雨戸などの形や色と見える外の庭のようすを見つめて描いてみてください。

【画題「つくらへ」の茶室】
茶室の窓の細かい模様を頑張りました。白い壁も色を重ねて工夫して全体的に白い所がないように描きました。

【寸評】
茶室の飾壁と飾櫓と網代天井を描いています。平面的な構成の絵になっていますが、微妙に変化する茶室の色彩の中に奥行き感があります。



三年生 中村 優太くん



四年生 中村 優希さん

【画題「つくらへ」の中から】
津倉邸の中から外の景色を描きました。木の色はいろんな色を使って指でこすって描きました。

【寸評】
茶室の中と外の木々を平面な画用紙に描いています。さぞかし距離感を出すのに苦労したでしょう。遠近法で室内をおもしろく描いていますので、庭の樹木などや水色の表現を工夫しましょう。

【画題「家の中から」】
今回は茶室と屋根と外の風景。屋根のパイプの所で明るいピンクしかなかったのが茶色を重ねて濃くしました。

【寸評】
建物の構造を考えながら描いています。作者のいるところから見える建物のつながり方も工夫しています。木材の色付けにも工夫して、作者の描きたい建物にしましょう。